

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. GPA (Grade Point Average) の実質化 (例. 課程修了認定、奨学金推薦、および研究科進学、などの要件) により、学生の経済学専門能力の水準を引き上げる。	→卒業時におけるGPA。GPAに基づく奨学金獲得者数や研究科への進学者数。	C
2. ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTによる経済学専門能力の単位認定をする。	→ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTの受験者数とその成績 (平均点)。	C
3. ゼミナール (基礎演習や研究演習) 活動を報告、公表する。	→HPでのゼミナール活動に関する報告の公表、更新。および、アクセス数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

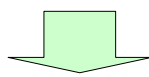
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 更なる専門能力の向上を目指し、より効率的な教育が行えるように、カリキュラム、授業形態、成績評価方法などを再考する。 (現状説明) 1. 成果の厳密な測定のためGPAを現在採用しているが、GPA実質化のための具体的な手段 (例えば、GPAに基づく奨学金など) は検討中。 2. 専門能力向上のため、ERE (経済学検定試験) などによる単位認定を検討中。 3. 少人数教育による学力向上のため、HP等での公表によるゼミの活発化。2009年にはエコノフェスタ - 他大学も含めたゼミ単位の研究発表会を開催し、活動は『毎日新聞』 (2010年1月4日特集号) に掲載。 基礎演習、研究演習活動報告のHP報告、公表はシステム的には行っていないためアクセス数の比較はしていない。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 学位授与、卒業判定は適切に行われている。「基礎演習 (1年)」、「研究演習入門 (2年秋)」、「研究演習I (3年)」、「研究演習II (4年)」と「卒業論文 (4年)」指導を課しているが、多様化する学生のニーズにより、「研究演習」と「卒業論文」の代替申請を認め、別科目の単位に読み替えるなどの措置をとり、残留することのないようにしている。ただし、これら学生の学生指導 (勉学、生活、進路) が課題である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



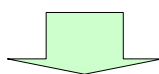
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	ERE (経済学検定試験)、日経テストなどによる単位認定。
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	ERE ミクロ・マクロの「経済と経済学の基礎AB」への成績読み替え作業の検討。
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「改善すべき事項」記載の単位認定の問題は、前項の6.3.3で扱うほうが適切でしょう。6.4は主として課程終了以後に測られる成果を問うものなので、大学院進学者へのアンケート調査などから6.4.2にアプローチしていく方法もあると思われます。

【学内委員】

○小項目6.4.2の内容が目標とどの様に関係しているのかが不明です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>
